

平成26年度 前期学校評価アンケート結果について

福木中学校学校評価委員会

今年度の前期学校評価アンケートについて、前年度との比較をおこなった。
「学力の向上」の領域、「豊かな人間性の育成」の領域、「まちぐるみによる教育の推進」の領域で全体的には前年度より生徒、教員ともに評価数値が上がっている傾向が見られる。前年度から取り組んでいる項目、今年度から取り組み始めた項目がそれぞれの領域で少しずつではあるが効果を出してきてきている。以下に、それぞれの領域における考察および今後の取り組みを示す。

1 学力の向上について

<考察>

- 昨年度から取り組んでいる毎時間の授業で「取り組み目標」を提示することについては、教員の数値が3.43→3.85と昨年度より上がっている。今年度も継続して全体での取り組みにしてきた結果であると考えられる。一方、生徒の「授業のねらいをつかみ内容を理解する」の数値は全学年平均3.19と高くはない。目標を示しているが、生徒側はあまり1時間1時間ごとの「授業のねらい」を意識しきれていない状態がみられる。
- 家庭学習時間が生徒、保護者ともに評価数値が低めである。今年度からは英語1日1ページノートは英語科に戻し、その代わりに新しく自主学習ノートの取り組みを始めた。各教科で家庭学習の課題を具体的に提示しその提出を徹底させるとともに、保護者へ協力をしてもらう方法を考えていく必要がある。
- 「福木中 授業の五箇条」（準備・挨拶・発言・姿勢・記録）に関わる各項目は教員、生徒ともにのきなみ前年度より評価数値が上昇している。これは、今年度よりさらにこれらの項目について意識統一を図って取り組んできた結果である。

<取り組み>

- 各教科で、授業を構成する中でただ「取り組み目標」を示すだけではなく生徒が授業を終わったあとにその1時間で何をしたのかがわかるように今現在取り組んでいる「振り返り」も確実におこなっていきけるようにする。
- 漢字二百字帳や英語1日1ページノートは、教科担任と学級担任が連携をとって毎週やり切らせていく。自主学習ノートは、各教科担任の方からも各授業でやる内容を伝え、学級担任は毎日提出することを働きかける。
- 「福木中 授業の五箇条」（準備・挨拶・発言・姿勢・記録）は引き続きどの教科でもやり切っていくようにする。

2 豊かな人間性の育成について

<考察>

- 生徒と教員のコミュニケーションについては、教員の数値が昨年度より上がっているが生徒の数値は下がっている。コミュニケーションの中身において双方の解釈のしかた

に差があるものだと考えられる。

- 「あいさつ」の項目は、前年度と比較すると割と高い数値である。ただし、生徒は小さな声でも挨拶をしていれば「挨拶をしている」と評価しているかもしれないが、教員にとっては自分に聞こえない挨拶は「挨拶をしない」と見なしている可能性も考えられる。
- 「学級活動や委員会活動、行事など意欲的に取り組んでいる」の項目でも生徒、教員ともに前年度より高い数値になっている。全体的に行事や学級活動に前向きに取り組んでいる様子が見える。
- 「私の子どもは楽しく学校生活を送っています」の保護者の評価数値が高くなっている。学校全体が昨年度より落ち着いて安心できる雰囲気になっていることの表れだと考える。（1年 2.18→3.19、2年 1.98→3.19 3年 2.44→3.39）

＜取り組み＞

- コミュニケーションについて、教員は「授業」「休憩時間」「放課後」「部活動」と学校生活の中では生徒と話す機会は多くある。これらの中で生徒に対する肯定的な声かけをはじめ、あいさつをこちらから率先することで、生徒がコミュニケーションを取りやすい雰囲気づくりに努めたい。そのような取り組みを通して、教育相談ではさらに生徒が自分たち自身のことについて話がしやすくなるものと考えられる。
- 前年度に引き続き、教員による日替わりでのあいさつ当番をおこなっている。この取り組みも生徒たちがあいさつに対して前向きに行える要因となっているものと考えられる。引き続き力をいれていきたい。また、上にも示した通り、できるだけ教員側からあいさつをしていく姿勢も大切だと考える。
- 学校行事、学年と学級での取り組みのそれぞれがバラバラに位置づけられるのではなく、学校経営目標に向かって、一貫した目的を持って行いたい。その意識を教員側がしっかりと持ち、ベクトルを合わせることで生徒たちへの声かけにも一貫性が出てくるものと考えられる。そして、生徒たちもどのように動くべきかが明確となり取り組みにもさらに力が入ると考えられる。

3 まちぐるみによる教育の推進について

＜考察＞

- 「学校だより」や「生徒指導だより」を通じて、定期的に情報発信に努めており、保護者も昨年度よりも評価数値が上昇している。
- 職業講話など、地域の方々を活用した授業等の項目も評価数値が上昇している。

＜取り組み＞

- 配布物が家庭に届かないという声も聞く。昨年度に引き続き導入している、PTAの学校メールで配布物の期限などの確認をするなど、確実に配布物が家庭に届けられるような工夫も考えられる。
- 総合的な学習を中心に地域の方をうまく巻き込んだ授業づくりを今後も考えていきたい。